

LAS を GSV に変換(グリッド)

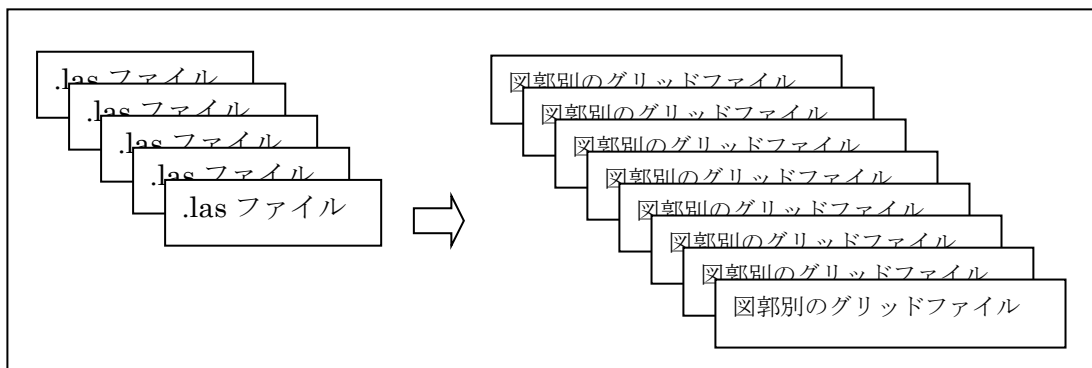
目次

1. 機能	1
2. ダイアログ	1
3. グリッドの標高値について	3
4. 保存するグリッドファイルについて	3
5. 更新記録	3

1. 機能

LAS(.las)ファイルに記録されているポイントの範囲から図郭を特定し、図郭別にグリッドのファイルを作成します。
グリッドのZ値は、最も近いLASのポイントのZ値を参照します。

1平方メートルに数十点から数百点程度の密度の高いLASのポイントから、1m間隔あるいは50cm間隔のグリッドデータを取り出すために作成しました。



Las ファイルのポイント範囲が重なっているケースを想定しています。

2. ダイアログ

ファイル指定あるいはフォルダ指定

ファイル指定の場合、.las ファイルを指定します。フォルダ指定の場合、指定されたフォルダの .las ファイルをリロードします。

LAS ファイル(.las)入力

.las ファイルあるいはフォルダを指定します。拡張子「.las」のファイルを参照します。

緯度経度から平面直角座標系に変換する

.las の座標が緯度経度で記録されている場合、ON にします。

平面直角座標系番号

平面直角座標系番号を指定します。保存するファイル名に平面直角座標系番号を付けます。また、緯度経度で記録されている .las の座標を平面直角座標系に変換する際に参照します。

図郭別に保存するファイルの地図情報レベル

保存する図郭別ファイルの地図情報レベルを指定します。

保存するグリッドの間隔

保存する図郭別ファイルのグリッドの間隔を指定します。

図郭別グリッドファイル (出力フォルダ)

図郭別のグリッドファイルを保存するフォルダを指定します。内容は下記参照。

3. グリッドの標高値について

保存するグリッドの標高値の計算方法です。

グリッドの各点について、.las の最も近い点を特定します。

- ① グリッドの位置と最も近い las の点に注目します。
- ② 距離が、グリッドの間隔の半分より大きい場合（グリッドを中心とする円の外側の場合）は、グリッドの Z 値は未定となり、保存の対象になりません。
- ③ Las の Z 値をグリッドの Z 値とします。

4. 保存するグリッドファイルについて

現在、保存するのは.csv ファイルのみです。

	0	10	20
1	数学X(東西),数学Y(南北),標高↓		
2	-87417.500	-65397.500	27.636↓
3	-87412.500	-65397.500	26.436↓
4	-87407.500	-65397.500	24.296↓
5	-87402.500	-65397.500	23.596↓
6	-87392.500	-65397.500	21.228↓
7	-87387.500	-65397.500	19.064↓
8	-87382.500	-65397.500	18.966↓
9	-87377.500	-65397.500	23.289↓
10	-87372.500	-65397.500	23.776↓

1行目がヘッダ行で、2行目からデータです。

今後、ヘッダの有無、列の構成、他のフォーマットなど追加して行く予定です。

5. 更新記録

2017/01/30

- ✓このメニューを作成